

演 習

演習名 工業経済学 (川端) 演習	授業担当者 川端 望
テーマ ケース・スタディで見る企業と産業	
テキスト 最初は森武磨・伊藤正直ほか『新版 現代日本経済史』有斐閣、2002年を使用する。 また『有斐閣経済辞典第4版』、『岩波小辞典経済学』のいずれかを入手すること。	
指導教官が勧める本 もしくは参考書 <テキストの参考> 矢部洋三ほか編著『新訂現代日本経済史年表』日本経済評論社、2001年。 <工業経済学・産業経済論> 川端望「工業経済学と産業分析」(研究年報『経済学』付録CD-ROM、2002年に所収) 日本：宇田川勝・橘川武郎・新宅純二郎『日本の企業間競争』有斐閣、2000年。 アメリカ：ウォルター・アダムス&ジェームス・ブロック編『現代アメリカ産業論第10版』創風社、2002年。 中国：丸川知雄監修・海外投融資情報財団編『中国の産業力』蒼蒼社、2002年。 ベトナム：大野健一・川端望編著『ベトナムの工業化戦略』日本評論社、2003年。 <フィールド調査入門> 田尾雅夫・若林直樹編『組織調査ガイドブック』有斐閣、2002年。	
授業の趣旨・内容 *まず日本経済の基礎知識を学ぼう。 産業経済研究の前提である。上記テキストの輪読でこれを行う。 *産業経済のレポート・論文を書けるようになるう。 対象は工業でなくともかまわない。節目でのレポートを書くこと、演習論文を完成させることを目標として努力する。 *フィールド調査に出かけよう。 ゼミでの企業訪問や各自の取材を通して産業の生きた現実から学ぶ。 詳しくはホームページを参照の上メールで問い合わせること。 http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/index.htm mailto:kawabata@econ.tohoku.ac.jp	
運営方針 最初は、テキストの輪読を行う。レポーターが報告し、全員で議論する。続いて、各自がテーマを持って調査研究を進め、報告・討論する方式に移る。年度末には調査記録・研究報告集や演習論文集を発行する。きちんとした調査計画には書籍・機材等を備品でそろえて支援する(ノートPC、ICレコーダーなど)。無断欠席厳禁。	
成績評価の方法 平常の出席・報告・討論と、課題の提出による。	